

「死刑執行」から 死刑を考える

死刑は生命を剥奪する刑罰であり、あらゆる人権の基盤にある生命権を否定するものです。死刑制度の廃止は国際的な潮流ですが、日本は死刑制度を維持しており、ほぼ毎年死刑執行を行っています。しかし、日本において、死刑の執行が実際にどのように行われているのか、ほとんど知られていません。

本シンポジウムでは、実際に行われている死刑の執行から、死刑制度の是非について、市民の皆様と一緒に考えていきたいと思えます。

【第1部】映画「休暇」上映

製作：「休暇」製作委員会

監督：門井 肇

出演：小林 薫、西島 秀俊 等



©2007「休暇」製作委員会

映画「休暇」より

【第2部】パネルディスカッション「死刑執行後の死刑囚」

池永 知樹 弁護士（パネリスト）

（埼玉県弁護士会、名張事件弁護団、オウム事件弁護人）

堀井 準 弁護士（パネリスト）

（東京弁護士会、オウム事件弁護人）

伊井 和彦 弁護士（コーディネーター）

（東京弁護士会死刑制度廃止実現本部本部長代行）

入場無料です
事前申込不要

【第3部】録音公開

「死刑執行まで2日間の録音記録」

昭和30年頃に大阪拘置所において行われた死刑執行2日前から死刑執行の瞬間までの関係者の録音記録(当時は刑執行の2～3日前に本人及び家族に知らされていた)を、解説画像付きで公開する。

日時：2024年1月13日（土）13時～16時30分（予定）

（開場：12時30分）

会場：弁護士会館 2階 クレオAB

（アクセス：東京メトロ丸ノ内線、日比谷線、千代田線「霞ヶ関駅」

B1-b出口より直通 A1出口より徒歩2分 C1出口より徒歩3分）

主催：東京弁護士会 共催：日本弁護士連合会 問合せ先：東京弁護士会人権課 TEL 03-3581-2205